

SILVANIA TIMES

641/11/27
Martis
No.119682

フェルゼングルント村で間欠泉吹き出る!!

奇岩が立ち並ぶことで知られるシルバニア南西のフェルゼングルント村。[Felsengrund(岩盤)]

26日、なんとその村で突如として岩の狭間から間欠泉が湧き出した。昨日まではただ静かにそびえていた岩々の中腹から、滝のようにお湯が流れ落ち出す光景は住人だけでなく街道を歩く者をも驚愕させ、ある者は驚きのあまり腰を抜かし、またある者はその幻想的な自然美に酔いしれた。

予期せぬ出来事に村中は一瞬パニックに陥ったが、半日経った頃には比較的落ち着きを取り戻したようだ。原因は未だ不明だが、思わぬ特産の出現に、中には早くも温泉宿を開くことを考えている者もいるという。

専門家の調査に依れば吹き出たのはナトリウム塩化泉で、温度も55度前後と比較的安定しており神経痛や切り傷などに効能があるのではないかとのこと。王都から徒歩二日と近い距離にあるため、今後は新たな観光名所になりそうだ。



王都街角アンケート (第20312回)

Q:あなたは夜寝る前に何をしますか?

- ・戸締まり 38人
- ・歯磨き 25人
- ・ワインを一杯 12人
- ・窓から叫ぶ 6人
- ・夜なべ 5人
- ・閑なべ 3人
- ・闊討ち 2人
- ・ほったたふにゆう 1人
- ・いつも寝てます 1人
- ・実験 1人
- ・爆発 1人
- ・野暮だなあそんなこと聞くなもう 23人



※グラフと記事が微妙に一致していないのは気のせいです

どうでもいいこと評論家、近所のフリッシュ氏のコメント

『夜中に窓から叫んでいる近所迷惑が6人もいたことに驚きます。あと私の名前はFrischです、Foolishじゃありません。ところで闊討ちって何ですか? ザジュブはあ』

by Sage Fabre

謎の爆発音?

現場を目撃した一部の住人の中で、噴出の前に人為的な爆発音が聞こえた、青っぽい髪色の男性が周囲をうろろしていた、などの噂が飛び交っている。真偽のほどは定かではないが、念のために市民軍が調査中とのこと。

村長(46)の話

こうね、水が、いや、お湯が、ぼーっとね、もうそりやあんな、ざぼーっと。岩の合間から、こうね、水が、いや、お湯が(以下繰り返す)

村長の息子(19)の話

ああ、すいません、父はまだ幾分興奮してまして。えっと間欠泉の話でしたっけ? 話が長くて完結せん、なんちて。真面目に話すからさ。間欠泉だけに、簡潔に話さばいいんでは? あ、うそそう。お願いもって話させて、まだネタがあるだけだ……聞く?

村長の孫(1)の話

だーだー、だーだーだー。

by A.Huygens

食物市場傾向

牛肉・羊肉に大幅な価格上昇の気配が見られる。だが、今回の上昇が一昨年の大戦と直接の関係があるのかはまだ不明。639年は戦火の被害により畜産の生産総数が減少しているため、その影響により数年後に畜産価格が不安定になるであろう事はかねてより懸念されていた。

大戦時の物価上昇からようやく回復基調への兆しありと思われていた矢先の出来事のため、市場関係者は戸惑いを隠せないようだ。

野菜全般・果実・穀物類は特に変化なし。

編集後記

なんでこんなもの作っているのか自分でもわかりません。っていうか、本当は新聞なんか作る予定なんか全くなかったんですが、なぜ。

Fubuki K.

小さなお友達 (と一匹のおつきお友達) のコーナー

- 【調剤・宝の地図】第1回
- やあ、しょくん。ぼくは、るろうのジャツ[Scatz]。たいりくじゅうを、おたからをもとめてたびしているんだ。
- ひとりじゃこころもとないから、ゆうしゅうなじょしゅうをさがしている。
- え、きみかい? そいつはこころづよい! まずはこてしらべだ。このもんたいはとけるかな?
- その1. アイレス [Aires] を さかさからよむと?
- その2. こえた9はんで「☆」をつくれるかな?
- その3. いま、なんもんぬ?

注:保護者の方へ
プレゼントの応募は以上の解答を添え、シルバニア新聞本社「週間宝の地図コーナー」応募係まで送付下さい。

by Filbert Kepler

名人インタビュー (第04回)

～高枝切りばさみの名人～

プロフィール
本名 匿名希望
職業 言えない 家族構成 妻・子



今回の方は故あって本名は明かすことができないようですが、とある王立軍に勤めるCさん(仮)に伺いました。

- えっと、はじめまして。
C:……ちやきーん。
—なんでも、高枝切りばさみの名人で有名だから。
C:……。
—あの、怒ってます?
C:ただの高枝切りばさみではない。
—ではそれは一体?
C:華麗なる高枝切りばさみと呼べ。
—は、はあ。それで、その高枝……華麗なる

高枝切りばさみでどのように植木の手入れを行うのでしょうか?
C:植木など、切らん。
—……え、切らないんですか?
C:傷ついたらどうする。
—じゃあ、何のための高枝切りばさみなのでしょう?
C:華麗なる高枝切りばさみと呼べ。
—わ、わかりました。その華麗なる高枝切りばさみで、C名人はどのような技を披露されているのでしょうか?
C:……ちやきーん。
—うわっ、こんなところで振り回さないでください!
C:ちやきーん、ちやきーん、ちやきーん。
—だっ、誰かあつ!

次回はミルククッキーの名人です。
by L.Wheatstone

連載大河小説：ラファエルの落とし子達 [273] ～楽園の放棄(4)～

by Fubuki K.

「フィリスディール！」

まるで全身が錆び付いているような赤黒い鎧の黒髪の男、ヨゼフ。Aは槍を両手に携え叫ぶ。

もっともリリの発明した金属は錆びない。その鎧は血糊と炎のすすで染まっているため、あたたかも錆びてしまったかのように錯覚させているだけなのだが、鎧に貫禄を持たせるには充分すぎた。一方でその血糊は鎧の動きを鈍くさせていた。

酷使のあまり軋みの叫びを上げる鎧を、無理矢理に筋力で動かす。

槍を握るその両手からは、じわっと血と汗が湧き出てくる。

「——やってくれたわね。街もろとも私たちが巻き込むとは。」

フィリスディールと呼ばれたその女性の顔に、表情はない。

白すぎる肌に端正な顔立ち、髪と同色のその蒼い眉すら微動だにしない。

その表情からは、彼女が怒っているのかは判断できない。しかし確実にその威圧感の前よりも強大なものになっていた。

「俺達の楽園を、よくも壊してくれたなっ!!」

ヨゼフは大声で腹の底から怒鳴り、槍の切っ先をフィリスディールへと向ける。

楽園(シヤロン)——。

それはかつてそこにあった一条の光。人類が絶望の中で見つけ創り出した、たった一つの希望の街。

今、その街が炎に包まれている。自ら放った炎によって。

全ては生き残るために。人類は、心中よりも楽園の放棄を選択した。

「俺達はこんなところで、滅びるわけにはいかない!!」

逆境に追い込まれたとき、人間は持てる全力を發揮するといふ。まさに今がそのときだ。ヨゼフはそう確信していた。

今の自分には全てを賭す勇気がある。守るべき者を守るために。それは彼にとって愛する者も含まれていた。

「フィリスディール！」

もう一度叫び、続けて、叫んだ。

「この槍に賭けて、お前を斃す！」

つづく